

令和 3 年度 宇陀市立榛原小学校 自己評価書（学校経営）

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 具体的評価項目 | 評価指標 | 評価 | 担当 | 成果と課題 | 課題の改善方策等 |
|--|-----------------|-----------------------|------------------------------------|--|------------------------------------|-----------|---|--|
| II 学 校 経 営 に 関 す る も の | (1)組織運営 | ①学校経営目標・方針 | ・学校経営目標の明確化 | ・学校目標や経営方針の見直しをしたか。 | A | A 中島 | ○学校目標や目指す児童像は、これまでの目標を継承している。学校経営については、「チーム榛小」をスローガンに個別対応ではなく、組織対応できる体制整備に努めた。 ○校務分掌の担当者を決める際、個人に任せるのではなく、経験値や今後の引き継ぎ等を考慮しながら複数配置を心がけ、組織対応できるよう考えた。各分掌の中では、さらに役割分担しながら進めることができた。 ○効率化を図るため、職員会議の議案書は事前に配布し、目を通してから会議に臨むようにしてきた。提案内容により、事前に部会等で検討してから提案するようにしている。また、行事の精選や内容の見直しを図った。 | ◇P D C A サイクルを大切にし、課題を絞って具体的な取組を進める。決めたことは、継続、徹底する。「報告・連絡・相談」を大切に、課題を共有する組織作りを心がける。 ◇若手教員が増える中、ミドルリーダーやベテランの教員の補佐やアドバイスが重要になってくる。学年会議や部会等で話し合う機会を保障し、情報共有しながら取組を進めていきたい ◇今後も、部会等で案件を検討したり、事前に会議資料を配っておいたりといったことを心がけていきたい。勤務時間内には会議を終えられるよう、時間調整をしていく必要がある |
| | | | | ・学校経営の方針や今後の方向を教職員に周知したか。 | A | | | |
| | | ②校務分掌等の連携 | ・校務分掌の適正化 | ・仕事量や学年配当との関連を考慮した分掌となったか。 | B | | | |
| | | | ・教職員の適正配置と運営への参加意識 | ・実践の継承や若手育成や考慮した校務分掌となったか。 | A | | | |
| | ③会議の運営 | ・職員会議の適切な運営 | ・事前に議案を検討するなどして、時間短縮に努めたか。 | B | | | | |
| | | | ・各種会議の設定と実施 | ・行事の精選や授業時間確保に関する話し合いの場を設定したか。 | A | | | |
| | (2)研究・研修 | ①校内研究 | ・研究組織と研究計画 | ・研究計画通りに実施し、研究紀要にまとめることができたか | A | A 奥堀井 | ○部会ごとに作成した計画書をもとに、主体的に取組を進めることができた。また、中間報告や年度末の総括の場で、それぞれの実践を交流し、配付された資料は、各自の「研究のあゆみ」にファイリングしていくことができた。 ○本校の児童の実態や教師のニーズを踏まえ、児童理解に関する研修（特別支援）や図工の実技・評価等の研修、部活問題に関する研修を行った。 ○コロナ禍において、外部からの講師の招聘が難しかった。 | ◇現在の形での研修を2年続けたが、児童の実態や教師の要望を踏まえた新たな研究テーマや研修方法を決定し、次年度に臨みたい。 ◇次年度の研究テーマに沿った実践をされている人材を探し、講師として招くなど、進んだ実践に学ぶ機会を設けたい。 |
| | | | | ・校内外の資源の活用 | ・他校に学び、人材(講師)の活用が十分できたか | | | |
| | | ②校内研修 | ・計画的な実施 | ・学期1回以上の研修(現職教育)を計画的に実施することができたか | A | | | |
| | | | | ・研修内容の精選 | ・自校の課題を踏まえた適切な内容を選べたか | | | |
| | (3)危機管理 安全管理 | ①危機管理体制の整備 | ・危機管理マニュアルの見直し | ・マニュアルの点検を行い、危機管理の共通理解ができたか | B | B 滝元田中 | ○一部マニュアルを変更し、実態に合うようにした。コロナ感染症のフロー図を作成し、即座に対応できるようにした。 ○月一度、生徒指導部会を開催し、体制強化を図った。 ○適切に作成し実施できている。ただコロナ禍で、変更せざるを得ない部分もあった。 ○安全担当主任を中心に、計画通り避難訓練を実施できた。コロナ禍に対応した取組もできた。 ○学校施設の担当者を決め、毎月1回安全点検を行った。修理箇所を修繕したり、業者に依頼したりして即座に対応した。 ○コロナ禍ということもあり、制限された中で取組を進めることができた。ただ、地域や関係機関の連携は希薄になった。 | ◇すべてのマニュアルを見直し、実態に合ったものにしていく。 ◇体制強化を図れたものの、職員の足並みが揃わないのが課題。随時、声かけをしていく ◇昨年度のものを基本に、変更する部分は変更し作成し、実施する。 ◇安全担当と連携し、例年通りの取組ではなく、変更を加えながら実施していく。 ◇ヒヤリハットの意識をもち、個々が安全点検に取り組みむ。 ○P T A 活動はもちろん、地域パートナーシップ事業を進め、地域や関係機関との連携を強化する。 |
| | | | | ・生徒指導体制の構築 | ・生徒指導体制の見直しを行い、改善できたか | | | |
| | | ②安全指導の徹底 | ・全校体制での取組の実施 | ・学校安全計画は適切に作成されているか | B | | | |
| | | | | ・学期ごとにテーマを絞って避難訓練を行い、マニュアルの整備を進めることができたか | A | | | |
| | | ③家庭や関係機関との連携 | ・日常的な取組の実施 | ・日常的に安全意識を高めるよう取り組んだか | A | | | |
| | | | | ・家庭との連携 | ・P T A や地域と連携し、取組を進めることができたか | | | |
| | ・関係機関との連携 | ・関係機関との連携を強化することができたか | C | | | | | |
| | (4)保健管理 | ①保健指導 | ・学校保健計画の立案 | ・学校保健計画は適切に作成されているか | B | A 岩城兵頭 | ○コロナウイルス感染症については学校全体で感染予防に取り組んだ。全校生に保健指導を行い意識を高めた。 ○来室児童の対応は職員、保護者との連携により効果的に行えた。またスクールカウンセラーとも連携した。 ○食物アレルギー・心臓疾患・てんかん発作児童の緊急時の対応については主治医から指導を受け、職員共通理解し対応できた。 ○コロナ禍の定期健康診断だったが学校医・教育委員会と相談し、感染症予防に配慮しながら全て実施することができた。 | ◇児童保健委員会では児童がねらいを把握して、発表や日常の啓発活動ができるよう取り組んでいきたい。 ◇コロナに関わっても引き続き感染対策をしていく。 ◇今後も来室児童の対応を職員、保護者、スクールカウンセラー、関係機関とも連携しながら関わっていききたい ◇食物アレルギーを持つ児童について、保護者や給食センターと連携しながら対応していく。 |
| | | | | ・保健指導の充実 | ・児童の健康状態や心身の課題に応じた指導ができたか | | | |
| | | ②心のケアや健康相談体制の整備 | ・学校カウンセラーの活用 | ・カウンセラーと連携して児童の指導にあたったか | A | | | |
| | | | | ・健康相談活動の充実 | ・養護教諭を中心とした健康相談活動を進めたか | | | |
| | ③関係機関との連携 | ・学校医や保健センター等関係機関との連携 | ・学校医や保健センター等関係機関と連携した取組ができたか | B | | | | |
| | (5)保護者・地域との連携 | ①学校情報の発信 | ・Webページ等の活用 | ・学校行事や学校からの情報をwebページを通じて、積極的に発信できたか | A | B 中島滝元 | ○学校便りやHPを活用して、学校の様子や児童の様子を地域や保護者に紹介することができた。 ○メール配信で全保護者に連絡が行き届くようになった。連絡事項に限らず、情報提供も行えた。 ▲本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で学級懇談会を実施することができなかった。授業参観は、分散形式で2回実施できた。学校行事等の実施も、内容を縮小し参加者を制限しながらの実施となった。 ○図書ボランティアを募り、休みの時間に図書貸し出しや本の整理等に当たっていただいている。また、見守り隊の皆さんに主に登校時の児童の見守りをしていただいている。地域コーディネーターを3人選出することができた ○ポスターやチラシ等で、地域の行事や活動を紹介しているが、コロナ禍なので参加を促すことは控えている。 ○保幼との連携では、見学会や連絡会をもち、交流することができた。1年生との交流も実施することができた。 ▲中学校とは、通常の連絡会は実施するが、新型コロナウイルス感染症の影響で児童生徒の交流はできなかった ○年3回、評議員会を開催し、授業を見ていただいた後に懇談している。ご意見は学校運営に生かしている。 | ◇今後も、定期的にHPの更新や学校便りの発行を行い、情報発信に心がけていきたい。 ◇緊急時の連絡等が多くなるので、主旨を説明し、保護者に協力を呼びかけていきたい。 ◇新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて、学校行事の実施方法について、その都度検討していきたい。実施できる行事については十分な感染症対策を講じながら実施していきたい ◇学校教育にご協力いただける方を今後も募集し、各領域で人材バンク等を整備しながら地域の方々の力を借りていきたい。コーディネーターに協力してもらいながら進めていきたい ◇感染状況を踏まえ、許容範囲内で地域行事へ参加できればいいと考える。 ◇今後も、1年生と体験活動等の交流と一緒にできればいいと考える。 ◇今後、中学校での体験学習や体験活動ができればいいと考える。 ◇適切な時期に情報提供を行い、その都度ご意見をうかがいながら学校運営に生かした |
| | | | | ・情報発信システムの活用 | ・メール発信システムを活用して、保護者への情報提供を効果的に行ったか | | | |
| ②学校(授業)公開 | | ・授業参観の実施形態 | ・定期的授業参観以外に、保護者が参観できる機会をつくられたか | C | | | | |
| | | | ・保護者や地域の方と共に参加できる形式の集会をもつ機会をつくられたか | C | | | | |
| ③家庭・地域との連携 | | ・保護者・地域住民の学校教育への参加 | ・保護者や地域の力を学校教育に生かす機会をつくられたか | B | | | | |
| | | | ・校務分掌に地域連携担当を設け、計画的な取組ができたか | C | | | | |
| ④校種間連携 | | ・異年齢間の交流 | ・児童が主体的に地域の活動に参加するよう動きかけたか | C | | | | |
| | | | ・保育所・幼稚園と連携した取組ができたか。 | A | | | | |
| ⑤中学校との連携 | | ・中学校との連携 | ・中学校と連携した取組ができたか。 | B | | | | |
| | | | ・中学校との連携 | ・中学校と連携した取組ができたか。 | B | | | |
| ⑥学校評議員の活用 | ・学校評議員会の開催 | ・学校評議員からのアイデアを生かされたか。 | A | | | | | |